

幸手GIGAワラ版 第3号

令和三年九月八日(水)

オンライン学習のひと工夫

「幸手GIGAWARA版」とは？

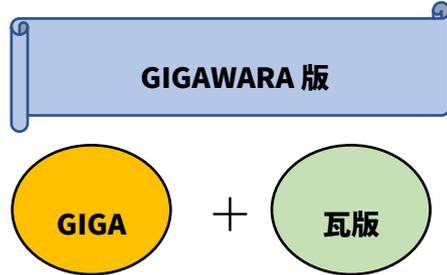
令和二年度、国の方針のもと、幸手市でも「GIGAスクール構想」に向けた整備が進められました。今年度は、「幸手市GIGAスクール構想 元年度グランドデザイン」に沿って、整備された環境の中で、児童生徒の資質・能力を育んでいるところです。この「幸手GIGAWARA版」では、その取組状況をお知らせすることを目的として作成する、「GIGA」に関する「瓦版」です。

「GIGAスクール構想」とは？

「GIGAスクール構想」とは、一人一台の端末と高速通信環境の整備をベースとして、Society 5.0の時代を生きる子供たちのために「個別最適化され、創造性を育む教育」を実現させる施策です。「GIGA」は「GLOBAL AND INNOVATION GATEWAY FOR ALL」の略で、「全ての人にグローバルで革新的な入口を」という意味が込められています。これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことが求められています。



文部科学省作成「(リーフレット)GIGAスクール構想の実現へ」から抜粋



幸手市立上高野小学校の取組

幸手市立上高野小学校では、樋口智子校長のもと、昨年度から一人一台端末の活用を推進し、今年度も家庭への持ち帰りを積極的に進めてきました。六日(月)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介いたします。

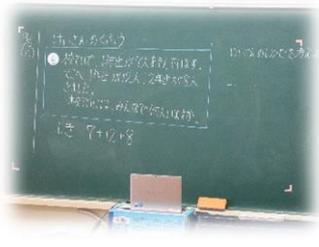
自宅からのオンライン学習

二学期になり、幸手市では分散登校(学校規模により一斉登校も可)を実施しております。上高野小学校でも、この日、学級の約半分の児童が自宅からのオンライン学習に参加していました。幸手市の一人一台端末では、Teamsというコミュニケーションツールを使うことができます。このツールを使用して、同時双方向の学習に取り組むことができます。自宅から参加している児童は、黒板の前に設置された教師用端末が映す映像を見たり、教師が自作した資料を画面共有したりしながら学習に臨んでいました。



教師用端末で黒板を映す際、カメラの焦点が定まらないことがあります。また、自宅から見ている児童生徒が板書をノートに写す際、カメラの枠からはみ出てしまうこともあります。

そこで、端末の位置を常に固定するとともに、黒板にテープを貼ってその枠に収まるように板書するという工夫をされている先生がいました。



目の前にいる児童生徒と、オンラインで参加している児童生徒のどちらにも学習保障を行うのは、とても大変なこととです。教師がそれぞれに対して別の伝達方法で授業を進めていく必要があるためです。「登校している子は指示が通っているが、オンラインの子は・・・」と不安になることもあると思います。そんなとき大切なのは、「時に「一事」という教育の原則です。〇〇したら、●●をして、次に△△をしましょう。」のような指示は普段の授業でも行わないように、たとえオンラインであっても、児童生徒への指示は「時に一事」。一つ指示をしたら見届けを確実にし、次の指示を出すことが大切です。

ある先生は、教室にいる児童にもオンラインで参加している児童にも分かるよう、読んでほしい教科書の箇所を声と映像で指示し、全員が該当するところを指差して教師に見せてから音読をしていました。

デジタルドリル学習の活用

ベネッセのミライシードでは、ドリルパークというデジタルドリル学習を行うことができます。ある学級でも、真剣に取り組む姿が見られました。

